

筑波研究学園都市記者会 御中

筑波大学

筑波大学発ベンチャー設立に関する臨時記者会見の開催について

本学の産学リエゾン共同研究センター(ILC)は、平成 14 年 4 月に設置されて以来、本学で生み出された数々の新技術等を基にした大学発ベンチャーの創業を支援してまいりました。

このたび、平成 16 年度の ILC 創業支援プロジェクトに採択された本学理工学研究科 1 年次 星野 厚がベンチャー「(株)ニューフォレスター」を設立するにあたり、下記のとおり記者会見を開催しますので、お知らせします。

この設立は、大学が学生の創業を支援した全国的に珍しいケースです。「(株)ニューフォレスター」設立に至った主な研究は、インターネットライブ放送のソフトウェアの開発です。既存のライブ放送システムは、TV 編集スタジオでの複雑な編集用機器が必要なのに対し、本技術(ソフトウェア)を使用することにより、一台のパソコンで編集スタジオ機能をカバーするもので、少ない予算で本格的なライブ配信を行うことが可能となります。

なお、本件については、文部科学記者会にもお知らせしておりますことを申し添えます。

記

1. 日 時 平成 17 年 2 月 21 日(月) 13:30 ~
2. 場 所 筑波大学産学リエゾン共同研究センター 1 階 106 号室

連絡先：産学リエゾン共同研究センター

電話：029-853-2912 FAX：029-853-6565

筑波大学総務・企画部広報課

電話：029-853-2040 FAX：029-853-2014

(参考)

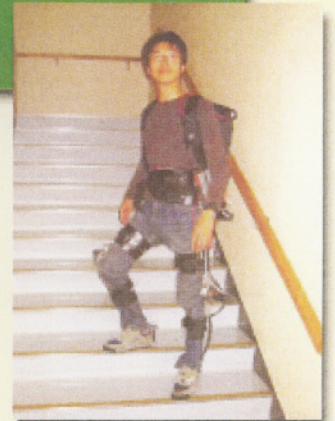
平成16年度に初の募集を行ったILCプロジェクトが、応募多数の中から慎重な審査により、8件採択され、4月から本格的な研究開発を開始しました。3年後には、最大18のプロジェクトが稼動することになります。

ILCプロジェクト紹介

～平成16年度採択ILCプロジェクト～

ILCプロジェクトの種類は3つで、平成16年度の採択プロジェクトは下表のとおり。

- ILC共同研究プロジェクト**：本学の技術シーズの移転を目的とした研究開発、又は企業の技術ニーズに基づく研究開発であって、企業との共同研究又は企業からの受託研究であるもの。
- ILC創業支援プロジェクト**：本学の技術シーズをもとにベンチャーを設立するための研究であって、本学の教員若しくは学生等又は元教員若しくは元学生等が研究を行うもの。
- ILCベンチャー支援プロジェクト**：本学の技術シーズをもとに設立されたベンチャーあるいは本学の教員若しくは学生等又は元教員若しくは元学生等が設立したベンチャーが行う本学教員との共同研究又は本学教員の技術指導を受けて行う研究開発。



山海教授 (システム情報工学研究科) のHAL (Hybrid Assistive Leg)

(ILCプロジェクトの公募)

毎年11月に公募します。原則として3年間、ILC施設の無償又は廉価使用と研究費支援が受けられます。なお、プロジェクトには中間評価が行われます。

(平成16年度の採択プロジェクト)

種類	No.	代表者氏名	所属	職名等	課題名	概要
共同研究プロジェクト	1	中村 潤児	数理物質科学研究科	助教授	カーボンナノチューブの表面科学的研究と燃料電池、水素吸蔵材料および大量合成への応用	カーボンナノチューブ(CNT)の表面反応性の解明を基に、燃料電池用電極触媒の開発、CNTの大量合成および水素吸蔵を達成する。
	2	三輪 佳宏	人間総合科学研究科	講師	細胞内現象を捉える光分子プローブ技術の開発	生細胞内の現象を光に変換する分子プローブを開発し、バイオ研究支援ツールとして商品化する。
	3	赤坂 健	数理物質科学研究科 (TARA)	教授	金属内包フラーレンの大量分離・精製法の構築	金属内包フラーレンの大量分離・精製法を確立するために、電解法および溶媒抽出法を用いた技術開発を行う。
創業支援プロジェクト	4	星野 厚	理工学研究科 ((株)筑波リエゾン 研究所研究員)	大学院生	放送・視聴・コミュニケーション統合インターネット放送システムの研究開発	低価格・高機能のコミュニケーション機能付き統合インターネット放送システムおよび課金システム等の開発。
	5	山海 嘉之	システム情報工学研究科	教授	生体信号駆動型パワードスーツ/ロボットスーツ開発プロジェクト	人間の意思に従って人間の力を増幅するパワードスーツ/ロボットスーツを開発するプロジェクト。
	6	松村 正利	生命環境科学研究科	教授	高品質バイオディーゼル生産プロセスの開発とCDM/JI事業への展開	純品のまま利用可能なバイオディーゼルの生産プロセスを開発し、カーボン・ニュートラルの特性を生かしたCDM/JI事業を展開する。
ベンチャー支援プロジェクト	7	久野 謙也	(株)つくば ウェルネスリサーチ	代表取締役社長	地域で活用できるe-healthシステムの開発	地域において多人数に対して科学的根拠に基づいた個別健康プログラムの提供を可能とするシステムの開発。
	8	橋本 明	(株)MCBI	代表取締役社長	プロテオームをベースとした高精度診断システムの研究開発	プロテオーム解析技術を活用し、虚血性心疾患、アルツハイマー病、妊娠中毒症に着目し、病態を反映する疾患関連タンパク質を探索、臨床で役立つ高精度診断システムの研究開発を行う。